

令和3年度 第3回中津川市総合計画推進委員会 主な意見

日時：令和4年3月1日(火) 13:30～15:00

場所：中津川市役所 4階大会議室

議事1 令和3年度中津川市総合計画推進委員会の検証結果を踏まえた対応について

・事務局より

【資料1】令和3年度中津川市総合計画推進委員会の検証結果を踏まえた各部課等の対応を報告

・主な意見

- ・介護福祉士の貸付事業で、奨学金制度だけではもう解消できない状況があるという認識をしている。福祉の関係はいろいろな事情があつてなかなか就職いただけない現状で、もう一步踏み込むとやはり、外国人の雇用を活用する、或いはもう少し、インターンシップの充実などに踏み込まなければならない。
- ・事業承継について商工業だけでなく、林業や農業のところでも、視点を変えれば、事業承継なのではないか。商業だけではなくてそういった、後継者、事業承継全体の受付窓口みたいな物が、「住む・働く」の窓口一本化も含めてパッケージとして提供できるような取り組みも考えていけるとよい。
- ・「coagari」やそういった取り組みをする中で、新しく市民交流プラザができたときに市民交流プラザと「coagari」、住む・働くの窓口、事業承継などの窓口というものを、どんなところに配置すべきなのかを考えていく必要がある。市民交流プラザのオープンに向けて、どううまく活用して、市民の人たちに、より活用してもらえるようになるのかを考えてもらえるといい。
- ・数多くの事業を行う中で、令和2年度、令和3年度とコロナの影響で延期や中止など、うまくいかなかった事業がある。そのうまくいかなかった2年間のことを記録して、ただ「悪かった」で終わらせるのではなく、後につながられるように、悪かったことを教訓として後世に残るようにまとめられるといい。

議事2 中津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂(案)について

・事務局より

【資料2】中津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂箇所を説明

・主な意見

- ・次世代交通の自動運転について、これはこれでいいが、ただ、これよりも先にJALが空飛ぶタクシーの実証実験をして、大阪万博にもう乗れるのではないかという話が出ている。山間地においては、自動運転よりそちらのほうが効果的であるならば、どういう立ち位置でやるのかということを考えて行かなければならない。自動運転を否定するわけではないが、今度、リニアの駅前から、苗木城まで空飛ぶタクシーで行くということが、現実化してくる。そうすると後期事業実施計画をするときに、新しいモビリティも視野に入れながら考えられるといい。
- ・リニアの駅のところに、そういったヘリポートというドローンのポートみたいなものの敷地も、頭に入れておくといい。
- ・中津川工業高校と自動運転をやってみるとするのも面白い。付知ですと少し離れすぎているので路線バスの代わりに自動運転のシステムを使って中津川工業高校の生徒たちを乗せて、通学ができるようになったら、中津川工業高校との親和性も高く、面白い。
- ・なぜ付知が対象地域になったのか、中津川市の地形的な複雑さも考えたら全域をカバーする自動運転はかなり難しい。それよりはるかに空を飛んだ方が確実。何よりも早く始めること、一番にやるのが大事だと聞いたことがある。そういう意味ではリニアの駅も岐阜県に一つであるし、ポイントになるかと思う
- ・なぜ付知かというと、リニアの駅ができ、都心から中津川市に訪れた方が、今度は高山方面に向かっていかれ、中津川市が素通りされてしまうことを大変危惧している。その中で東京大学大学院が中津川市と一緒に、地域づくりを核としてリニアを活用したいという考えのなかで、高山方面に行く途中の付知に比較的大きな拠点があり、そこを核として周遊できるような素地があり、歴史文化も非常に興味を持たれて、そのような経緯のなかで付知が選ばれた。
- ・中津川観光協会の話は聞いているが、例えば旅館が道の駅の商品を紹介することで、旅館のファンの人にその商品に興味を持ってもらうというように、今はSNSの時代なので、そういった一人一人のお店等のファンの人が中津川市の中で、互いに紹介し、繋がっていくことで、広まっていくといい。観光協会が直接ツアー等を組んで頑張るのではなく、中津川市にある発信できていないすばらしいものを、

SNSの使い方を教えたり、商品の写真の撮り方を教える、そのように観光協会は学んでいける場を提供する。その中で交流が生まれ、違うものに発展していくように、それぞれの人を巻き込みながらできるといい。栗きんとんのファンの人、中津川市で遊ぶ人、ホテルのファンの人、そういう方々がコラボして、観光に関わる多くの人を、たくさん取り込んでいけたらいい。

- ・移住コーディネーターについて、空き家は買う側だけでなく売る側も親戚の了解を得る必要があるなど、大変である。今後空き家になる可能性の高い家を、ちゃんと整理して貸せる状態に持つていくことはすごく大変なので、住みたい人をただ募集するのではなく、貸せる状態にするサポートをする必要がある。また、貸す側もただでさえ見ず知らずの人に貸すことに抵抗があるのに、さらにそれを仲介する人も良く知らない人では貸借は難しい。移住コーディネーターが地域に入り、空き家を貸せる状態にしていくサポートをする中で地域の人たちと仲良くなっていく。そういうことをして初めて、移住希望者が来てくれたときに物件が紹介できると思う。

- ・コロナ禍でテレワークができる職種が田舎へ流れているということを知ると、魅力を発信するにはすごくいい時期と考えるので、そういったところも研究して、市の魅力を発信できたらと思う。

- ・坂本駅周辺の区画整理なども、後から土地を確保しようと思うとなかなか難しいので、先ほどのヘリポートのような話も先を見越して用意しておくといい。

- ・移住定住については、農業をやりたい方は、家と土地をセットで求めているので、農地つきの空き家等を探してリストアップしておくといい。

- ・先日、同じくリニアの駅ができる飯田市と中津川市の飲食店総勢21店舗が会した「中津川市&南信州うまいもん会議」というのがルビットタウンで行われた。中津川市と近隣の市と連携は必要だが、隣の駅との連携も面白い発想だと思う。

- ・中津川市といえば栗きんとんがあつて、それに次ぐ何かが弱い、棒葉寿司やタケノコなどいろいろあるがアピールされていない。中津川市には特産のトマト、タケノコ、アジメコショウ、なす等いいものがたくさんあるので、そういったものを使った献立をアピールしていきたい。

- ・タケノコは去年取れ過ぎて大変だったと聞いた。働く人がいないので、取れてもさばききれないのは本当にもったいない。名古屋の方の学校給食では、国産のタケノコというのは毎年足りなくて、大体取り合いになっていた、中津川ではタケノコは生えるけど、処理しきれないと聞いて、何とかできないうるかと思う。そのように、後継者の話に繋がってくるが、資源があつてもそれを守る人がいないことがとても残念で、何か考えていただけたらと思う。

議事3 後期事業実施計画の策定方針について

- ・事務局より

【資料 3】後期事業実施計画の策定方針を説明

- ・主な意見

- ・都市計画税について、税の均衡化の話は俎上に上げてもらいたい。合併15年たつていまだに1000分の17の固定資産税都市計画税と1000分の14の固定資産税という、地域によってコンマ3の税の負担の不均衡がる。これはかなり大きい、都市計画税が難しいのなら一律1000分の16にするということも含めて、俎上にあげてもらいたい。もちろん都市計画の区域というのはいろいろ必要なエリアであることは承知しているが、やはり税の均衡性という観点から、その結論がどうあるかは別として、総合計画の中で議論してもらいたい。

- ・若者の地元定着推進事業の部分で恵那市と連携というところがあつたが、おそらく大部分の人が今後50年、100年と中津川市が中津川市のまま続いてくとは思っていない。やはり少しずつ広域の連携を増やしていかなければならない。少なくとも、近い将来恵那中津川というのは、一緒になっていく方向だと思う。また、東濃5市で東美濃市などとなるなど、平成の合併に続いた次の合併は、当然出てくる話である。そのため、総合計画を作っていく際には、ある程度これから先の30年、50年先も見据えた中で考えていくことが必要になってくる。そういった観点に立って計画をしてもらいたい。

- ・確かに人口増減の減少率が若干緩和されているが、人口世帯数のうち外国人というものを見るとそこが非常に多くなっている。つまり外国の方が入ってくることによって緩和されているという部分もある。その中で、高齢化率は上昇している。中津川市内でも郡部の方は、高齢化がさらに進んでいく。そういった部分もまた当然勘案して見通していく必要がある。